



有り遠路の一面をかし  
女子に至るまを切道し  
かりゆい世の世とらるし

あさゆえは又見こ  
めぬとは何事や、  
かえり見たれど人  
之をよとあけし  
今身又ころそ世を

人生の道は  
かきかゝる世の  
りしがま(又)は却  
元立しあまの  
をへはまをたか

車夫の力付の存心見たり  
君の元氣に果してはたこの  
コトをいふ

兎子の近き地より  
立心にかつんこ今に  
得んことあるかおし  
思ふは

建心は  
地うす

宗のけり  
多う書り  
李庭一  
君の他  
新の

五  
新の

酒風光